



社内で笑顔を見せる紀の國建設の女性社員たち

# 紀の國建設 最高位「えるぼし」

## 国の女性活躍認定制度 道南初

函館市昭和1の「紀の國建設」(紀國隆一社長、25人)が、女性活躍を推進する「えるぼし」企業認定を受けた。女性の管理職比率が職業別平均を下回るなど一定の基準をクリアした企業を厚生労働省が認定する制度で、道内の建設業では初めて。同社は「誰もが働きやすい職場づくりを今後も進める」と話している。

「えるぼし」は3段階あり、同社は最高の「三つ星」の認定を受けた。北海道労働局によると、道内の認定企業は21社で道南での認定は初めて。うち三つ星は同社を含めて17社。評価基準は①採用②継続就労③労働時間④管理職比率⑤多様なキ

ャリアアコースターの5項目で、例えば採用の競争倍率で男女差が少ないことなどが要件となる。

同社の女性社員は9人。管理職7人のうち2人が女性で、管理職に占める女性比率は28・5%と建設業の平均値(3・1%)を大きく上回る。また、多様なキ

ャリアアコースターの例として、おむね30歳以上の女性を正社員として採用。紀國隆一専務(40)は「女性、男性」という意識はない。会社に必要なかどうかで判断している」と話す。

同社のインテリアコーデイナー、佐々木由佳さん(49)は24年間勤めた金融機関を退職し、2016年に入社した。当時、コーデイナーの資格は持っておらず、入社後に通信学校に通い取得した。佐々木さんは「やりたいことを応援してくれるし、子育てや親の介護で職場を抜けることに対して嫌な顔をする人がいない」と語る。その分、任せられた仕事には真摯に取り組み、困っている社員がいれば支えたいという意識が強いという。

2級建築士の西本風音さん(24)は職場の雰囲気はひかれ、入社を決めた。「女性がいて話しやすいし、気持ちよく働ける」とする。

同社は今後、えるぼしを得た企業のうち、特に優良な企業を認定する「プラチナえるぼし」を目指すという。

同社は今後、えるぼしを得た企業のうち、特に優良な企業を認定する「プラチナえるぼし」を目指すという。

ャリアアコースターの5項目で、例えば採用の競争倍率で男女差が少ないことなどが要件となる。

同社のインテリアコーデイナー、佐々木由佳さん(49)は24年間勤めた金融機関を退職し、2016年に入社した。当時、コーデイナーの資格は持っておらず、入社後に通信学校に通い取得した。佐々木さんは「やりたいことを応援してくれるし、子育てや親の介護で職場を抜けることに対して嫌な顔をする人がいない」と語る。その分、任せられた仕事には真摯に取り組み、困っている社員がいれば支えたいという意識が強いという。

同社は今後、えるぼしを得た企業のうち、特に優良な企業を認定する「プラチナえるぼし」を目指すという。